

マレーシアで魚釣りを楽しむ —水資源保護・環境改善の取り組み—

特定非営利活動法人 紫川を守る会

1. はじめに

紫川を守る会は、2006年12月、特定非営利活動法人として設立認証され、福岡県北九州市に拠点を置いてボランティア活動を行っています。

北九州市の小倉北及び南区を流れる二級河川紫川の自然を守ることを目的に設立されて以来、1) 地域のまちづくり、2) 自然環境保全、3) 国内外の環境保護団体との協力活動を3本の柱にして、河川清掃、稚アユの放流、地域住民に対する環境教育、及び紫川ハゼ釣り大会等に参画してきました。

近年では国際協力活動に重点を置き、開発途上国の中で、特にマレーシア国の環境保護組織（サラワク州資源環境審議会：Natural Resources and Environment Board, Sarawak、以下NREBと略）と協働して、サラワク州の自然保護や環境改善活動を支援しています。

2. 本活動の目的及び背景

ボランティア活動を主業務とする特定非営利活動法人が国際協力活動の一環として、開発途上国の自然環境の改善及び保護のため、現地の環境保全組織と協働し、地域住民の環境意識の向上を図り、効果的な成果

が期待される環境ボランティア活動を実施するとともに、開発途上国におけるひとつの活動支援モデルを提供することを目的としました。

対象とする途上国については、低開発国のアフリカや地理的に遠い南アメリカ諸国を除いて、東南アジア諸国の中で環境対処能力を有するとされるマレーシア国をターゲットにしました。

マレーシアは、東南アジアでは中進国に位置づけられ、経済発展と共に環境保全対策についても他の途上国に比較してかなり進んでいる国と言えます。

しかしながら、伝統的な天然ゴムやパーム油の製造のほかスズ鉱山の開発が古くから行われており、これらの工場から排出される汚水による河川や海域の汚濁が問題となっていました。近年は、産業開発や人口増加等により、十分に処理されていない廃水や家庭からの未処理の生活排水が流れ込み、河川や海等の公共用水域に深刻な水質汚濁を起し、早急な改善が求められているところです。

一方で、廃棄物管理については、家庭ゴミなどの一般廃棄物は地方自治体が回収・運搬及び最終処分を行っています。しかし、不法投棄が方々に見られ、街の景観を損ねています。なお、近年は、政府と民間が出資



サラワク州クチン市サラワク川流域



クチン市内のポイ捨てゴミで汚染された家の周囲や河川流域

する民営化会社への移管（民営化）が積極的に進められています。

3. マレーシアにおける水質改善に向けた活動

マレーシア国における排水処理管理については、公共下水道の普及率は低く、浄化槽や小規模下水道（コミュニティプラント）は普及していますが、農村部はくみ取り式トイレ（腐敗槽、セプティック・タンク）が一般的です。

本活動の対象となったサラワク州が位置するボルネオ島はマレーシア国半島部に比較して、天然資源に恵まれています。そこで、それらの保護や環境改善が急務であることから、2012年から当会はNREBの活動支援を行うとともに、2016年6月には両者間で「環境友好協定」を締結して自然保護及び環境改善活動の支援を強化してきました。

(1) 紫川（北九州市）における環境保全事例の紹介

当会は、NREB、クチン市役所、小中学校等を対象として、2012年から環境セミナー「紫川再生の経験」等を開催して自然保護・環境保全の意識の向



クチン市バコ村周辺でのゴミ収集活動



クチン市内での「紫川環境改善の経験」の紹介

上に努めてきました。この中では、河川等の公共水域の水質改善には、行政、企業等の他に、地域住民の協力が必要であることを力説しました。

そして、具体的な活動の場として、クチン市バコ村をモデル地区に指定して、廃油や生ゴミの再利用、プラスチックゴミ等のポイ捨て禁止や河川の清掃活動等の実施を計画しました。

(2) サラワク川地域住民の参加による河川清掃活動

当会は、NREB、クチン市役所等と協働して地域住民の参加のもとで市内を流れるサラワク川、バコ川等の主要河川の清掃活動を実施してきました。

クチン市内の北部に位置するバコ地区には、そこを流れるバコ川の下流にバコ村とバコ国立公園があります。

バコ村は、人口3,000人余りの半農半漁の村ですが、未処理の生活排水の流入や、ゴミ収集サービスが十分でなく、不法投棄されたゴミ等によりバコ川の水質汚濁が進行し、魚介類の収穫量が減少しており、早急な環境改善が必要とされています。また、バコ国立公園では、一部の旅行者による自然環境の汚染や破壊等に苦慮している状況です。

(3) 廃棄物の3R (Reduce, Reuse and Recycle)

活動の実践

クチン市内の地域住民を対象にして、コミュニティーセンター、小中学校等において、廃棄物の3R (Reduce, Reuse and Recycle) の実践活動を推進してきました。ゴミ処理は水問題と切り離せない課題であり、この解決手法として、「廃油からロウソク作り」、「家庭でできるコンポスト (堆肥) 作成」活動を実施してきました。

特に、モデル地区のパコ村においては、地域ぐるみの活動成果が実り、2016年には当会の支援により「廃棄物リサイクルセンター」を建設することができました。現在では、彼らの手でセンターの適切な運営・管理を行い、高品質の生産物 (ロウソク、コンポスト等) を販

売できるまでになりました。

(4) 水資源保護・環境保全意識向上のための魚釣り大会の実施

クチン市の一般市民を対象に、2019年8月、河川の資源保護・環境保全意識の向上を目的にして、サラワク川流域において市民魚釣り大会を開催しました。当会が、魚釣り大会についてのノウハウを教授し、財政支援を行うことにより、NREB、クチン市役所等の運営努力が実り、多くの市民や旅行者 (計200名あまり) が参加して、魚釣りを楽しみながら自然の恩恵や環境保全の大切さを実感する有意義な市民啓発活動になりました。



クチン市パコ村での3R実践活動



クチン市内での「廃油からロウソク」作成活動



クチン市内での「生ごみからコンポスト」作成活動



サラワク川での市民魚釣り大会

4. 開発途上国における支援手法

当会によるマレーシアにおける取り組みは、草の根レベルの活動ですが、目に見える成果を得るために、支援内容を工夫して、支援モデルの構築を目標の一つにしました。

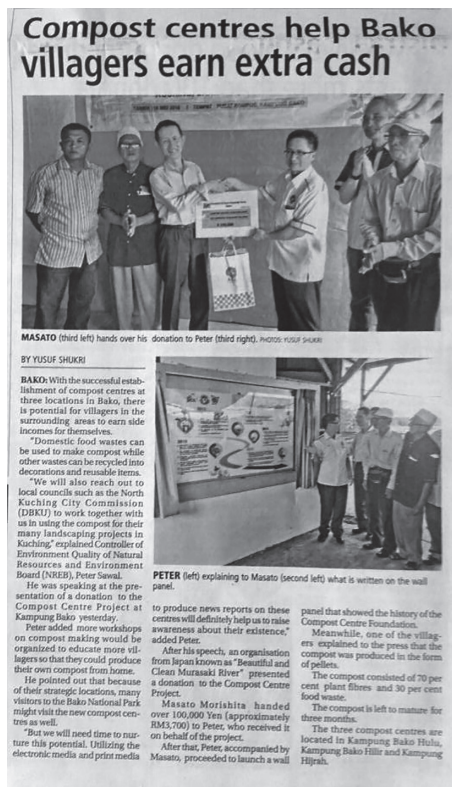
即ち、2016年に、当会はNREBと「環境友好協定」を締結して、その中でクチン市バコ村を資源循環型社会形成のモデル地区に指定して、技術や財政支援を行い、環境改善活動を実施してきました。

地域住民の環境意識の変革に関しては「言うは易し、行うは難し」です。「ゴミのポイ捨てはやめましょう」、「生ゴミを分別して、コンポストにしましょう」と言葉だけで説いても誰もついて来ませんでした。しかし、繰り返し根気強く、これらの活動の実践・指導を繰り返すことによって、時間はかかりましたが、この取り組み活動を理解して協力する住民が増えてきました。

そして、コンポスト作成活動においては、適切な指導及びモニタリングにより品質のよい生産物を作り、販売することが出来るまでになりました。活動を開始して4年後には、「廃棄物リサイクルセンター」を建設し、住民自らの手で維持・管理出来るようになりました。

一方では、マレーシアにおけるこれらの活動成果を広く世界に発信するために、2018年11月、フィリピン国マダウエ市で開催された第4回国際河川サミット(4th International River Summit)に参加しました。

そこで、「紫川の水質改善の歴史」やマレーシアにお



廃棄物リサイクルセンターの完成を報じる現地の新聞



クチン市バコ村でのコンポスト作成指導



廃棄物リサイクルセンターで生産されたコンポスト及びそれを利用した農地

ける当会の活動を「技術移転における成功事例のひとつ」として世界に情報発信し、サミット会場では参加者と水環境改善等に関する意見交換をすることができました。



第4回国際河川サミットでの活動成果の発表

5. 地域社会への普及及び啓発活動

当会によるこれらのボランティア活動成果は、定期的なニュースレターの発行等により会員に周知し、活動への参加を推進しています。

これまで、北九州市内のボランティア団体との交流に加えて、地場の環境産業企業とも賛同を得て、「地球環境の保全」を合い言葉に国内外に環境技術やシステムの普及を推進しています。

その他、福岡県が主管する「水もり自慢」や北九州市が事務局となって運営する「紫川流域会議」等においても、当会による活動の情報発信を行い、「河川愛護活動」、「地域のまちづくり」等に組み入れている様々な団体と交流を図ってきました。当会の活動が地域社会に微力ながら貢献できればと考える次第です。

ところで、当会のような地方の小規模な組織が、外国の政府機関と「環境友好協定」を締結し、協働活動を実施してきた事例は少ないと思っておりますが、この成功事例が、地域で活動するボランティア団体にとって、一つのロール・モデルになれば幸甚と思っています。

現在は、インターネットの普及により海外における活動は以前と比べてかなり容易になっており、当会を含めて国内のボランティア団体が海外にも手を広げて、日本の優れた技術やシステムを世界にアピールできればと考えています。

6. 今後の活動計画及び課題

(1) 国内における活動

従来どおり、紫川における河川清掃、稚アユの放流、ハゼ釣り大会等に参画するとともに、北九州市内のボランティア団体との交流に加えて、今後は様々な機会を利用して、他県の環境関連団体等との協働活動を手がけたいと考えています。

(2) 開発途上国における活動

2019年8月、当会はNREBと「環境友好協定」を更新して、引き続き3年間、協働活動を実施していくことを決定しました。この中では、これまでの年一度のクチン市訪問に加えて、NREBのスタッフを北九州市に招聘して、人材育成を目的に、自然保護・環境改善のノウハウ等を体験させることを計画しています。(15)



NREBから当会への感謝状及び記念品

また、2018年11月、フィリピン国マンドラウエ市でのサミットに出席した際、現地の環境保護団体と交流し、環境改善活動の支援を要請されたこともあり、どのような活動支援ができるか検討中です。

これらの活動を実施するにはかなりの資金が必要ですが、そのために、当会が発行しているニュースレターを機会があるごとに広く配布して会員数の増加を図るとともに、他の環境関連組織等からの寄付金をお願いしているところです。

開発途上国での支援活動は一筋縄ではいきませんが、「Think Globally, Act Locally」（地球規模で考え、地域規模で活動する）の精神に加えて、地球規模で微力ながら、クリーンで美しい自然環境を守る目的で、マレーシア等の開発途上国に対する技術及び財政支援を継続していきたいと考えています。

特定非営利活動法人 紫川を守る会